

「いのちの泉」

ヨハネによる福音書 4章 1-26 節

イエスさまはシカルというサマリアの町で真昼に井戸の水を汲みに来る女性と出会われました。イエスさまは、この女性に「わたしに水を飲ませてください」と声をかけられました。声をかけられた方はびっくりです。なぜなら、当時は男性が見ず知らずの女性に声を掛けるなどということも、ましてやユダヤ人がサマリア人に声を掛けるなどということも、ありえなかったからです。

この時、この女性は、イエスさまの呼びかけに対して黙ってそのまま帰ることも出来たはずですが、でも、彼女はそれに答えた。水をあげたかどうかはこの際大した問題ではありません。イエスさまの方を向いた。これが大事なことです。このことによって、イエスさまとの交わりが生まれたのです。そして、それによって神の救いの業が現れていくのです。

イエスさまは、この女性の渇きを知っておられました。では、彼女の渇きとは、何だったのでしょうか。彼女は、五人の男と結婚しては別れてきました。そして今は六人目の男と共に暮らしていますが、それは夫ではありません。おそらく彼女は、本当に愛し、愛される関係を築きたいと強く願っていたのだと思います。自分の理想の愛し合う関係を追い求め結婚を繰り返してきたのでしょうか。けれども結局、満たされませんでした。おそらく彼女は、人を愛そうとし、人に愛されたいと願いつつも、相手が自分の願ったように愛してくれることだけを求めているのではないのでしょうか。自分が愛すること、「相手のために尽くす心」を自分では与えようとはしなかったのではないのでしょうか。彼女は、自分を愛し、自分が愛されることにのみ執着してしまっていたのだらうと思います。

そこにこの人の抱えている深い闇があるのです。相手に自分を愛してくれることを求めるばかりの、お互いに求めあうだけの生活は魂が飢え乾き、求めれば求めるほどに関係は破綻し、両者の間に決して越えることが出来ない壁ができてしまう。そういう私たち惨めな人間の心の渇き。それはまさに罪人の渇きです。でもその罪人の渇きを癒し、その内面から潤すために、イエスさまは「サマリアを通らねばならなかった」のです。

イエスさまは、そのような渇きを覚えている女性に、渇くことのない生きた水を与えようとしておられます。しかし、イエスさまからこの生きた水をいただくためには、しなければならぬことが一つあります。それは、自分の渇き、自分がかかえている闇をイエスさまの前にさらけ出さなければなりません。それをイエスさまの前で明らかにして、自分の罪を認めることが必要なのです。

そのためにイエスさまは彼女に、「あなたの夫をここに呼んで来なさい」と言われました。それこそが彼女の人生の最大の問題でした。そこにこそ、彼女の抱えている深い闇、つまり罪があり、それが彼女の渇きを生んでいたのです。それゆえ、彼女が抱えている罪の闇をイエスさまは明るみに出し、また彼女にもその間をはっきりと認めさせようとするのです。それは彼女の罪を暴露して責めるためではありません。傷つけるためでもありません。その罪の重荷から解放し、彼女が赦されて新しく生きることができるようにするためです。

このイエスさまの求めに対して、彼女は「主よ、あなたは預言者だとお見受けします」と言いました。サマリア人にとって預言者と言えば、すぐにモーセを思い浮かべます。そして、そのモーセに神さまが語られた御言葉にこういう言葉があります。「わたしは彼らのために、同胞の中からあなたのような預言者を立ててその口にわたしの言葉を授ける。彼はわたしが命じることをすべて彼らに告げるであろう。」(申命記 18:18)。この言葉はメシア預言として考えられていた御言葉です。つまり彼女は、ここでイエスさまをメシアとして受け入れたのです。その時、彼女の心が開かれたのです。

さらに彼女は、イエス様に質問をします。「わたしどもの先祖はこの山で礼拝しましたが、あなたがたは、礼拝すべき場所はエルサレムにあると言っています」。このことは、彼女が抱えている渇きとは一見何の関係もないように思えますが、そうではありません。彼女の渇きの根本にあるのは、神さまとの交わりの喪失です。自分に命を与え、愛をもって導いてくださる神さまとのつながりを失っていること、つまり、まことの礼拝を失っていることこそが、彼女の苦しみの中心にあるのです。なぜなら、神さまに愛されることの中でこそ私たちは、人を愛することができるようになるからです。私たちは、神さまに愛され、神さまを愛することによって、人との間にも、愛し愛される関係を築くことができます。神さまを礼拝することは、神さまを愛し、神さまに愛される関係に生きることです。

だから、彼女は礼拝の場を求めたのです。先祖から伝えられているゲリジム山とエルサレム神殿、どっちが本当の礼拝すべき場所なのかを聞くのです。救いをいただいた感謝をささげたい、罪の悔い改めをしたい、そのための礼拝を求めたのです。

イエスさまは、「父を礼拝する時が来る」、あなたのことを本当に愛しておられ、あなたを守り導こうとしておられる父なる神さまと出会い、その神さまとの関係に生きるまことの礼拝があなたに与えられる、そう約束してくださっています。そして、そのまことの礼拝は、「この山でもエルサレムでもない所で」与えられると言われます。

では、その礼拝はどのようにして与えられるのでしょうか。イエスさまは、「わたしを信じなさい」と言われます。イエス・キリストの十字架と復活によって、神さまが私たちの罪を赦してくださり、私たちをイエスさまと共にご自分の子としてくださった、その父なる神の救いの恵みと、その救いをもたらしてくださる主イエスを信じることによってこそ、罪人である私たちは神の子とされ、父を礼拝するまことの礼拝を与えられるのです。

このまことの礼拝こそ、主イエス・キリストが与えてくださるいのちの水です。その礼拝において、私たちは、常に新しく、生きた水である神の御言葉が与えられ、それによって私たちは渇きを癒され、潤されて、永遠の命に至る道を歩み続けるのです。